

令和4年10月18日

羽生市議会議長 様

会 派 名 拓政会
代表者氏名 会長 保泉 和正

行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1. 視察日程 令和4年10月12日(水)～14日(金)
2. 視察項目 第84回全国都市問題会議
基調講演「民間主導の地域創生の重要性」ほか
3. 視察参加者 保泉和正(島村 勉は議長公務として参加)
4. 視察概要

第84回全国都市問題会議が長崎市出島メッセ長崎で開催された。主催は、「全国市長会」、後援として「日本都市センター」、「長崎市」である。基調講演、主報告、一般報告、パネルディスカッションなどが行われた。

○1日目

全国市長会会長の立谷秀清(福島県相馬市長)の挨拶から始まり、(株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO 高田旭人 氏の「民間主導の地域創生の重要性」と題して基調講演が行われた。

次に、長崎市長 田上富久 氏から「長崎市の魅力あるまちづくり」と題して主報告が行われた。

次に、島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美 氏から「地域との新しい関わり方・関係人口」と題して一般報告が行われた。

次に、山形市長 佐藤孝弘 氏から「ビジョンを活かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して～」と題して一般報告が行われた。

最後に、一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾忠志 氏から「交流の産業化を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～」と題して一般報告が行われた。

○2日目

「個性を活かして選ばれるまちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」と題し、東京都立大学法学部教授の大杉覚市がコーディネーターとなり、パネルディスカッションが行われた。ゆとり研究所所長 野口智子氏、山梨大学生命環境学部教授 田中敦氏、NPO法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一氏、岐阜県飛騨市長 都竹淳也氏、兵庫県伊丹市長 藤原保幸氏がパネリストとして、事例報告者があった。

【感想等】

基調講演の骨子は、ジャパネットと地域創生についてはジャパネットの創業者の高田明氏は、小さなカメラ店からスタートしてラジオを使った新しいショッピングの形を生み、テレビ、チラシ、カタログ、インターネットとさまざまなチャンネルでの通信販売事業を36年余り行っている。その根本は、良いモノを「見つける」そして、その魅力を徹底的に磨き上げ世の中に伝えていくことだと信じて実行して来た。成功を治め、長崎にプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の運営、プロバスケットクラブ「長崎ヴェルカ」を立ち上げ運営し、現在長崎駅前にスタジアム・アリーナや、商業施設、ホテル等で構成するまちづくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2年後の2024年開業予定という地域創生の先頭に立って長崎市のまちづくりに貢献している。

長崎市長 田上富久 氏による「長崎市の魅力あるまちづくり」について主報告がありました。その内容は、長崎市は、第二次世界大戦中に被った戦争被爆地として核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際平和文化都市としての役割を果たしている街です。そして、長崎市は、一口で言えば「港あり、異国の船をここに招きて自由なる町をひらきぬ歴史と詩情のまち長崎 世界のナガサキ・・・」長崎学の創始者の古賀十二郎先生の言葉に集約されているとおり、長崎の歴史が港から始まったことに示されているとのこと。長崎市は、交流の歴史と時代と共に変革期をうまく対応しながら、住んでいる自分のまちの価値観を見直す事で新しい時代の多様な都市のあり方を見つける取組みにチャレンジしている。

わがまちの価値とは、を考え

- (1) 価値を見つける(軍艦島の価値をみつけ)
- (2) 価値に気づく(まちにある身近なものに気づいていない価値に気づく)
- (3) 価値を磨く
- (4) 価値を生み出す(民間の力を活用した「長崎スタジアムシティプロジェクト」をジャパネットと取り組むことにより新しい魅力を生み出してくる)

官民一体となり交流人口の増加や雇用の場も創出できる事で長崎市の課題解決にもつながりたいと考えている。

現在、JR 長崎駅周辺が近代都市に向かって開発されています。新幹線の開通、駅前ホテル建設、県庁舎昨年完成、出島メッセ(会場)完成、市庁舎来年完成、そして、ジャパネットとの

長崎スタジアムシティが2024年完成と最高に活気づいている長崎市でした。

その他一般報告は

- ① 島根県立大学の田中輝美 地域政策学部准教授による「地域との新しい関わり方・関係人口」の報告でした。
- ② 山形市長 佐藤孝弘 氏による「ビジョンを活かしたまちづくり」～「選ばれる山形市」を目指して～の報告でした。
- ③ 一般社団法人地域力創造デザインセンター 高尾忠志 代表理事による「交流の産業化」を支える景観まちづくり ～長崎市景観専門監の取り組み～の報告でした。

パネルディスカッションでは、東京都立大学法学部 大杉覚 教授による「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチを題に、「人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ」～「雲仙人プロジェクト」の試み～を、ゆとり研究所 野口智子 所長。

「ワーケーションの意味の拡張と変異」を、山梨大学 田中 敦 教授。

「人は人に会いに行く」～「まち歩き」で見つけた“まちのつくり方”～を、NPO 法人長崎コンプレックス 桐野耕一 理事長。

「人口減少先進地の挑戦」～ファンと共に取り組むまちづくり～を、岐阜県飛騨市 都竹淳也 市長。

「清酒発祥の地・伊丹」～酒と文化が薫るまち～を、兵庫県伊丹市 藤原保幸 市長。

それぞれの選ばれる街を目指して、地域資源を活かし取り組んでいる報告でした。